

# 「今、地域が熱い！」

# 共に生き、支え合う社会を目指して

市では、市民の皆さんが家庭や地域で、その人らしく安心して自立した生活ができるよう支えていくことを目的に、地域福祉の総合的、計画的な推進を図るため、所沢市地域福祉計画策定事業を進めています。

今回は、同計画への取り組みや同計画地域づくりモデル事業(三ヶ島地区)に参加した市民の皆さんの活動などについてお知らせします。

※問い合わせ 福祉総務課(☎2998-9113・FAX2998-9035)

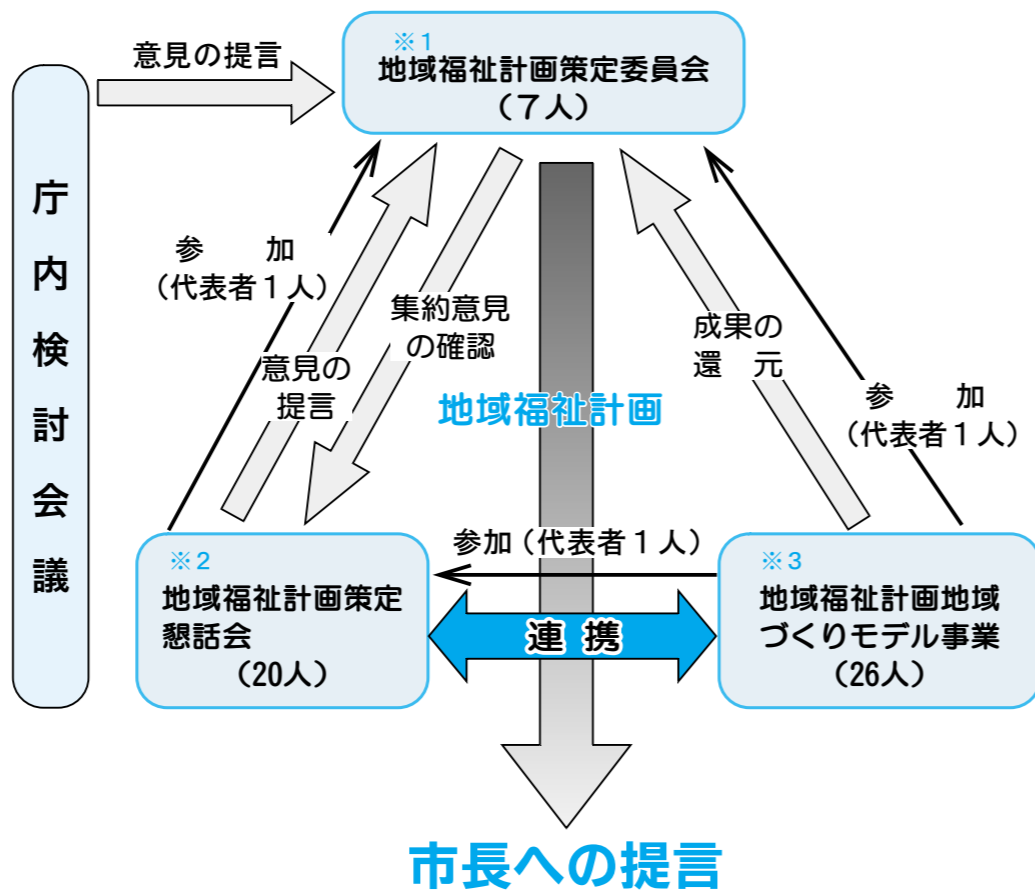


※ ワークショップとは…共通の体験・共同作業を行い、相互理解と新しい発見を重ね、問題解決を図っていく手法です。

## 平成16年度 所沢市 地域福祉計画策定に向けて

## 平成16年度

図1 地域福祉計画策定体制図



### 市長インタビュー

#### 地域で助け合う 協働の仕組みの構築を

●地域福祉の必要性についてお聞かせください。

高藤市長 かつて、地域には近隣同士で自然に助け合うことのできる「地縁社会」がありました。しかし近代化が進む中、多くの地域でそのつながりが希薄になってきました。しかしながら、今、社会は再び地域コミュニティを再構築していかなければならない時代を迎えています。

地域の中で共に支え合う活動は、生活している地域への愛着を生み出し、互いに理解し合える地域をつくる一歩となります。こうした活動の輪が広がり、地域全体が明るく元気になっていければ、大変すばらしいことだと思います。

その意味では、地域福祉の主役は市民の皆さんであります。「地域福祉のあり方」について、みんなで考え確認し合いながら、一歩一歩進めていくことが大切です。そして、すべての市民の皆さんが生き生きと自立した生活を送るために、誰も排除されず、差別されない社会の実現こそが地域福祉が目指す社会ではないでしょうか。

●地域福祉活動実践事業の目的は何ですか。

市長 この事業は、一人ひとりで活動するよりもみんなの力を合わせ、自らの取り組みを通して、市民主体のまちづくりへの第一歩を踏み出すための試みです。

その目的は、共に支えあう地域社会を目指して、市民・行政がそれぞれの役割を果たしながら協働できる仕組みをつくらせていくことです。

市としては、この事業を平成16年度以降、他の地区でも「市民と市による協働のまちづくり」の視点から取り組んでいきたいと考えています。市民の皆さんのご理解と多くの方のご参加をお願いします。

計画策定に当たっては、「地域福祉計画策定懇話会」と「地域福祉計画地域づくりモデル事業」を並行して行っています。

そのうえで、「地域福祉計画策定委員会」は市民の皆さんの自主的な活動によって明らかとなる地域の課題や対策を集約し、皆さんの主体的な参加による計画として現実に即した行政計画となるように策定していきます。

以上ことから、「地域福祉計画地域づくりモデル事業」は、同計画の策定に必要な不可欠な柱として位置づけられます。

●地域福祉計画の位置づけは

地域福祉計画は、生活の拠点である地域社会を基盤とした福祉を推進するために策定した市の福祉の3つのプランである「障害者計画」「児童育成環境整備計画(エンゼルプラン)」「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」に定められた福祉施策を中心に、地域福祉の土台となる情報提供・相談体制の整備・事業者育成・サービス向上等、共通の施策や理念を定め、それを具体的な形で表し、支え合いの地域づくりを目指す。

●地域福祉計画地域づくりモデル事業とは

市では、地域福祉計画の策定に先駆けて、平成15年度4月から三ヶ島地区で地域福祉計画地域づくりモデル事業を実施してきました。この事業は、「安心して暮らし続けることができる地域を自分たちでつくる」という思いを具体的に実践してみようという試みで、三ヶ島地区に在住・在勤・在学の皆さんを対象に呼びかけ、20歳代から70歳代までの方がこの活動に参加しています。



手話ダンス(交流イベント)

●活動テーマの決定と計画

まずは、4月から5回のワークショップで、三ヶ島地区の現状把握、地域の課題に対する取り組みについて話し合いました。

ここで提起されたそれぞれの課題を、「高齢者・障害者」「身近な交流とボランティア」「道とみどりの3つのテーマに分類し、それぞれのテーマごとに分類して、12月までの間、実践活動を行うことになりました。

●各グループの活動紹介

実際に取り組んだ活動内容は、次のようなものです。

●四ツ葉のクローバー

お年寄りの方や障害者を持つている方等、さまざまな方が集まり交流できる場所を作りたいとの思いから活動を始めました。

早稲田大学所沢キャンパスで学生の皆さんと協働して、交流イベント(ふれあいデー)を開催しました。

●グリーンティ

ボランティア活動の方法と、地域のボランティア情報を掲載した情報紙「ちやちや」を作成し、地域の公共施設などに配布しました。

●緑と小川の会

三ヶ島地区内を流れる砂川堀流域マップの作成とともに、地域のボランティアグループが行っていた川の清掃作業へ参加しました。



砂川堀の清掃作業

### 今後の活動について

それぞれのグループ活動の取り組みについては、1月に三ヶ島公民館のホールで開催した市民フォーラムで報告が行われました。

その後、これまでの実践活動を踏まえ、今後どのような活動を地域で展開していくのか、話し合いが行われ、平成16年度以降は、地域住民の皆さんによる自主的な活動へと、発展していくこととなります。

市では、こうした市民の皆さんによる共に支えあえる地域づくりの活動を、今後も所沢市社会福祉協議会と連携し、他の行政区でも順次展開していきます。

なお、今後の地域福祉計画の策定状況や各行政区で行う事業への参加者募集のご案内は、広報ところざわなどでお知らせしていきます。

### 地域福祉計画策定体制

- ※1 地域福祉計画策定委員会  
学識経験者などから構成され、基礎調査、懇話会からの提言、地域づくりモデル事業の取り組みなどに基づき、その内容を市の行政計画として集約し、まとめていく組織です。
- ※2 地域福祉計画策定懇話会  
幅広い分野の方々(民生委員・自治会・PTA・商工会等)や公募による市民の皆さんの参加を得て、自主的活動を行っていくうえでの課題・要望等を検討、整理し、策定委員会に提言していく組織です。
- ※3 地域福祉計画地域づくりモデル事業  
平成15年度は市内11行政区から三ヶ島地区を選び、区域内の市民の皆さん30人程度の方を公募し、福祉をテーマとした地域づくりに取り組む組織「地域福祉コミュニティづくり」を結成しました。自らの生活課題などを策定委員会へフィードバック(還元)しています。

### ラジオ体操で 広がる人の和



中山 健治さん (和ヶ原在住)

私が住む近くの公園では、毎朝恒例のラジオ体操が行われます。初めは数える程の人数の参加でしたが、最近では多いときには100人近くの人々が集まっています。

木曜日には、体操のあとに参加者が公園内の清掃を行います。市の花と緑のオアシス推進事業を活用して苗木を配布してもらい、公園の緑化にも協力できました。

これも住民参加のまちづくりでは、今後も人の和を大切にして地域の活動に貢献できればと思います。

### 地域づくりモデル事業に参加して



関根由美子さん (三ヶ島在住)

私は、地域福祉計画地域づくりモデル事業に、メンバーとして参加しました。

私たちのグループ「グリーンティ」では、地域のボランティア情報紙「ちやちや」をつくり、地域の人たちに配布しました。情報収集・製本作業等の苦勞もありましたが、この活動を通してボランティアに対する認識も変わりました。

今後、三ヶ島がより住みよい地域になるよう、私たちが地域の一員として協力していきたいと思っています。